

平成27年度 事業報告

社会福祉法人 恵和会
特別養護老人ホームさざんか園
デイサービスセンターさざんか園
在宅介護支援センターさざんか園

1. 特別養護老人ホームさざんか園全体事業報告

本年度は、介護保険制度の改正に翻弄された1年ということで総括できます。全体としては、報酬の減額改定により著しく経営が厳しくなったこと、介護職員のみに対する処遇改善加算が大幅に増額となったことによる他職種との不平等が生じたこと、特に特別養護老人ホームでは、4月に報酬改定と入所要件の改正があり、さらに8月から利用者の部屋代の増額、補足給付対象要件の変更、2割負担者の導入等目まぐるしく制度が改正されました。この間、利用者家族への説明等制度改正をスムーズに進められるよう職員一丸となって取り組んできました。デイサービスセンターでは、4月から導入された介護予防・日常生活支援総合事業への1年かけての移行が、大きな混乱もなく行えたことは評価できる事だと考えます。

介護現場においては、当初の計画に基づき「施設、在宅でのその人らしい生活とは」を常に考え、日常のコミュニケーションを通じ、利用者の望む暮らしに向けて援助方法をより充実させた1年でした。

地域社会に向けては、銚子イオンでの無料相談会が定着したこと、介護予防・日常生活支援総合事業の導入に向け、検討会等で積極的に意見を述べ、地域コミュニティの構築に役割を果たしたこと等銚子市の地域包括ケアシステムの構築に向け、介護保険施設として積極的に発信してきました。

平成27年度事業報告

社会法人恵和会
さざんか園小畑デイサービスセンター
小畑在宅介護支援センター
さざんか園ホームヘルプサービス

—はじめに—

毎年事業計画を立案する時期には、「制度との闘ぎ合い」を余儀なくされ、今年度の事業報告の中でも、「制度ありき」の現実の中で上手く泳ぎ切れなかった実情も実感していますが、そんな中でも決して諦めずに前に進むことが事業の継続を成し得ていくことと感じています。

変化していく制度の中で太刀打ちしていくには、それに対応出来る「組織としての強い仕組みを創る」ことが先決であり、そして、そのためには、毎年の事業計画を確実に実行する風土や体制を築くことが大切と考えます。そのうえで、その組織を構成する「人の質の向上」が重要であることは言うまでもありません。発展し続ける組織にとって重要なのは、企画力や組織力、また現場力といった様々なチカラが必要で、そのための人材育成は欠かすことが出来ません。そのため、今年度も継続的に、各責任者にその責務や自覚を促すことを行なって参りました。しかしながら、制度と経営の整合性も検討しながら、人員配置、新人職員の定着率、人材の成長度合いの見極め等々、ある意味今年度は、最も大きな試行錯誤の連続でした。

事業計画の立案及び実施は、各部署の責任者にそれぞれ責任を持って作成・実践するように指示して参りましたが、厳しいことを言えば、未だ未だその力量には格差があり、育成の余地と不足を感じます。また、事業計画の立案も然ることながら、その計画を確実に実行するための実施責任は、個人（責任者クラス）の度量にかなり左右されます。そのため、責任者クラスの自覚を深めるための指導は欠かせず、今後も組織にとって、「人の育成」は永遠に欠かせない重要課題と捉えます。

今後も、年度初めに立案した事業計画が、その質の良し悪しをも踏まえて、何割程度、実現出来たかを検証することにより、その反省と改革を、次年度の事業計画や行動指針に反映していきたいと思えます。

時代の激しい変化の中で、一々留まっていることは出来ず、その時その時で何が出来るかを模索していく逞しさが、これからの事業経営の存続に繋がることを正に覚悟しながらの一年でした。